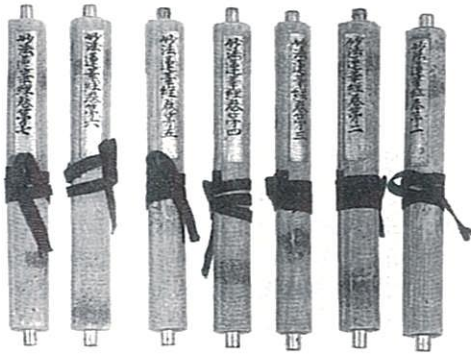


新収蔵品紹介



袖珍本「妙法蓮華経」8巻  
室町時代末期  
9.9×100~114cm

袖珍本とは、袖に入れて持ち歩きできるほどの小型の本の意味である。

法華経8巻が箱入りで揃い、第8巻の巻末に、宝永元年(1704)の「松田氏遠光院常栄日長」と「備前国岡山明光山妙勝寺第三十一世嗣法 誦経院日周」の奥書がある。また、「此妙経書写は永禄十一戊辰歳也」とあり、この法華経が永禄11年(1568)に書写されたものであることがうかがえる。この奥書は、法華経の表装をやり替えたとき、旧の記録を書き留めたものと考えられ、字体から見ても室町時代末期ごろのものと思われる。

明光山妙勝寺は、岡山に初めて日蓮宗を伝えた大覚が備前国へ日蓮宗を布教したとき、能勢氏に迎えられて一時とどまったといわれている寺院で、現在も岡山市船頭町にあるが、空襲で焼けたために古い資料は皆無という。



備前焼置物「雉」  
江戸時代中期  
総高30.0cm

桃山時代に隆盛を誇った備前焼は、江戸時代になると、やがて施釉陶磁器に押され衰退への道を余儀なくされた。このため生き残りをかけ、さまざまな工夫と努力が行われた。細かい水餃粘土を使って作った作品の表面に土土または黄土の泥漿を塗りつけて焼いた伊部手と呼ばれる作品が盛んに作られるようになったのもこのころからである。伊部手の作品はまるで施釉陶か銅器のような感じを与え、施釉陶磁器に対抗するために工夫された手法と考えられる。また、この伊部手の手法による細工物や白備前・色備前・彩色備前なども作られるようになった。細工物としては香炉・香合・置物類が主に作られている。この「雉」は旧岡山藩主池田家に伝来した優品で、伊部手の置物としては比較的古い時期の作品であり、江戸時代の備前焼を研究するうえでも貴重な作品である。

# 平安から鎌倉へ

—武士政権誕生の時代—

平成6. 10. 22~11. 27

本年度の特別展は、平安時代から鎌倉時代にかけての変革の時代を取り上げて、古代社会がどのようにして中世社会に移行していくのかを、今日に伝わる歴史的資料により具体的に紹介していったものである。

この時代は、古代の律令制が変化し、貴族中心の社会が揺らぎ、軍事専門の勢力としての武士が、社会的に台頭していく大きな変革の時代ととらえることができる。

そこで、展示にあたっては、平氏政権の時代、鎌倉幕府の成立、重源と法然の3つのテーマを掲げた。そして、この時代を代表する国宝8点、重要文化財13点をはじめとする約100点の資料によって、展示を構成していった。

## 1 平氏政権

土地制度のうえでは、荘園制が広がりをもせていくなかにおいて、平氏が保元・平治の乱を通して、軍事力によって政治権力を握っていった。ここでは、知行国・荘園・日宋貿易に注目して、平氏政権を支える経済的基盤としてとらえた。

とくに、平清盛らが篤く信仰した厳島神社から借用した国宝「平家納経」をはじめとする平氏一門の文化遺産の数々からは、平氏の繁栄ぶりをうかがうことができ、多くの入館者の関心を集めた。

## 2 鎌倉幕府の成立

軍事専門の勢力としての地位を固め、社会に浸透していった武士団の平氏と源氏は、治承・寿永の乱を通して、

その覇権をめぐる争いを繰り返していった。いわゆる源平の争乱については、藤原成親の備前国配流や藤戸・屋島の合戦など、地元岡山にも広く知られている。これらのひとこまを物語や絵巻物・屏風絵などで再現し、平氏滅亡までの過程を紹介していった。

また、高野山金剛峯寺の国宝「宝簡集」が公開されたのははじめ、貴重な中世文書に接する機会が得られたのは、歴史愛好家ならずとも興味深いことであった。

## 3 重源と法然

平安時代末期の人々の不安な思いを象徴している経塚の遺物は、末法時代の到来と変革の時代を物語る格好の資料といえる。

ここでは、岡山ゆかりの二人の高僧を取り上げた。ひとりには、平重衡により焼き討ちされた東大寺の再建をめざす重源であり、もうひとりには、貴族的な国家仏教から民衆に解放された仏教に転換させた法然である。これら二人の業績と信仰を語る資料の中において、とくに法然の生涯を絵巻物に描いた増上寺の重要文化財「法然上人伝」は、西日本での初公開となり注目された。

展覧会期間中の10月29日(土)には、岡山大学名誉教授・神戸女子大学教授石田善人氏による「平氏政権と岡山」と題する記念講演会を本館講堂で開催した。



特別展記念講演会



重要文化財 法然上人伝 東京都 増上寺

# 港町牛窓

平成 7. 2. 9 ~ 3. 12

本館は、これまで、昭和56年に「海のみち-瀬戸内の海上交通-」、昭和63年には「瀬戸内に生きる」と題する特別展を開催して、本県の歴史と瀬戸内海との関わりを考えてきた。企画展「港町牛窓」は県内の代表的な港町牛窓を取り上げて、このテーマをさらに深めてみたいと企画したものであった。

牛窓周辺は早くから人々の生活の場となったところで、牛窓沖の黄島や黒島は縄文海進の様子を物語る遺跡として知られ、5世紀になると、牛窓湾を取り巻く丘陵や島に、5基の前方後円墳が築かれて、この地に権力者が成長していたことをうかがわせる。また「風土記」や「万葉集」に見える地名伝説や歌は、牛窓が古くから知られた港町であったこと推測させるものである。

平安末期のころ、厳島へ参詣する途中の平清盛がこの地に宿泊し、南北朝時代の末ごろには、足利義満が厳島参詣の際寄港して、赤松氏のもてなしを受けるなど、牛窓は備前国を代表する港町であった。

室町時代になると、朝鮮に遣使する者が現れ、牛窓の田原丸という千石積の船が明へ派遣されたこともあった。この時代、牛窓は瀬戸内屈指の港町に成長していたと考えられ、『兵庫北関入船納帳』によると、文安2年(1445)に133艘の牛窓船が兵庫北関へ入港している。この入港船数は地元兵庫(現神戸港)に次いで多く、牛窓船の活発な船稼ぎには注目すべきものがあつた。日蓮宗本蓮寺の創建は、こうした海運業を基盤に成長した商人たちの経済力に支えられていたものと考えられるが、本蓮寺の創建については、本堂の瓦の銘から尾道の大工が関わっていたことがわかる。また、東大寺の「関銭算用帳」には、牛窓と兵庫港の間に「人船」が運行された記事があり、この時代、牛窓をめぐって私たちの想像を越えた人の行き来があつたことが偲ばれる。

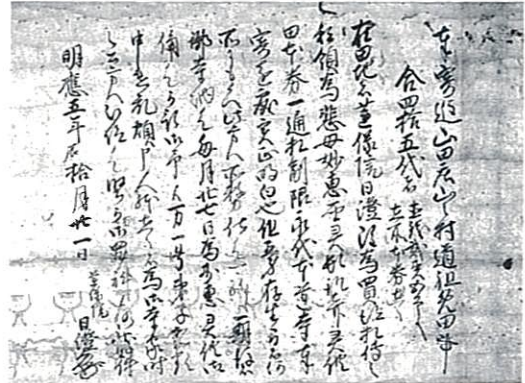
中世の牛窓は、泊・関・綾の3港から成り立っていた。関は現在の関町、綾は綾浦辺と考えられるが、最大の港であつたと思われる泊が何処であつたのかは不詳である。これについて、近世の資料ではあるが、今回展示した一文字波戸築造の計画図は、泊を中浦辺りに比定するのが妥当であろうことを示唆するもので、注目される。

近世になると、牛窓は西の下津井とともに、幕府役人や大名に対する岡山藩の対外的接待港として機能した。このため、在番所が置かれ、燈籠堂、一文字波戸が築造されるなど、岡山藩による本格的な港の整備が行われた。朝鮮通信使の一行が牛窓に足跡を残しているのはこのためであろう。また、寛文年間に西廻り航路が整備されると、各地の

廻船が寄港し、各種の間屋稼ぎが発達したほか、九州から材木を仕入れて造船業が盛んになった。

展覧会は、1. 牛窓のあゆみ 2. 朝鮮通信使 3. 造船 4. 牛窓の民俗芸能と行事 5. 牛窓の文化財の5つのテーマで構成し、牛窓の歴史や文化の全貌を紹介するものとした。

今回、本蓮寺から借用した資料の中には、未公開の貴重な資料が含まれ、これまでの通説を一步前進させる収穫もあつた。また、図録『港町牛窓』には「牛窓関係略年表」を付したが、まだまだ不十分さは否めない。今後を期したい。



初公開の本蓮寺文書 日澄上人寄進状

## 主な展示資料

黄島貝塚・黒島貝塚出土遺物	牛窓町民俗文化資料館
天神山古墳・鹿歩山古墳・二塚山古墳・黒島古墳出土遺物	牛窓町民俗文化資料館
弘法寺文書	弘法寺
本蓮寺文書	本蓮寺
一文字波戸築造図	岡山大学附属図書館
牛窓村見取絵図	〃
「朝鮮通信使の図」絵馬	邑久町尻海 若宮八幡宮
朝鮮人來朝留帳	岡山大学附属図書館
朝鮮通信使一行書幅	本蓮寺
木造船製作工程模型	瀬戸内海歴史民俗資料館
板図	笠岡市立郷土館
船大工道具一括	個人・岡山県立博物館
唐子踊り衣装・道具一式	唐子踊り保存会
太刀踊り衣装・道具一式	太刀踊り保存会
絹本著色阿弥陀二十五菩薩來迎図	遍明院
大難刀 銘盛光	〃
藍韋威肩白腹卷	〃
磬	弘法寺
黒韋威鎧 大袖付 附鍬形	五香宮
絹本著色不動三十六童子像	宝光寺
絹本著色両界曼荼羅図	〃
絹本著色本蓮寺三師画像	本蓮寺
「おかげ参りの図」絵馬	牛窓神社

テーマ展

# 「美作の古墳」

平成6. 5. 19~6. 26

美作地方では前方後円墳成立期にまず全長50m前後の日上天王山古墳（津山市）や郷観音山古墳（鏡野町）が築かれ、また同80mを越える美作最大の前方後円墳美和山1号墳（津山市）や前方後方墳の植月寺山古墳（勝央町）も東西に並び立つかのごとく築かれている。前方後円墳や前方後方墳の築造は、その後も梶並川・滝川下流域、加茂川下流域、香々美川下流域、久米川・倭文川流域を中心に続くが、5世紀になると直径60mをはかる月の輪古墳（柵原町）のような大形の円墳や旧出雲街道沿いを中心に大形の方墳も築かれる。

古墳時代後半期の5世紀末から6世紀になると、木棺直葬や組合せ式箱形石棺を埋納した小規模な古墳が美作各地に築かれるようになる。こうした古墳の築造は首長から自立していく民衆の動向と深い係わりをもっていると考えられている。6世紀中頃に横穴式石室の築造が普及してくると、中小古墳の築造は爆発的ともいえる盛行をみせ、佐良山古墳群（津山市）のように200基もの古墳が群集して築かれたところも見られるようになる。こうした古墳築造の変遷とその有り様は、美作地方における政治的動向を反映するものであるといえる。古墳の築造は7世紀後半をもって終わりをつけるが、このテーマ展は、美作各地でこれまで学術調査や史跡指定・整備に伴う調査、各種開発に伴う調査等によって発掘された出土品のうち、主なものを集め、古墳時代における美作地方の社会や文化の一端を紹介したものである。



テーマ展 展示風景

## 主な展示資料

津山市・美和山古墳群出土 埴輪片  
津山弥生の里文化財センター

- |                          |       |               |
|--------------------------|-------|---------------|
| 鏡野町・赤峪古墳出土 盤竜鏡           | 土師器壺  | 鏡野町教育委員会      |
| 勝央町・岡高塚古墳出土 四獣鏡          |       | 個人            |
| 勝央町・岡高塚古墳出土 筒形銅器         |       | 津山郷土博物館       |
| 鏡野町・竹田妙見山古墳出土            |       |               |
| 内行花文鏡片 管玉 小玉             |       | 鏡野町教育委員会      |
| 美作町・楯原寺山古墳出土             |       |               |
| 半円方形帯四獣鏡                 | 土師器甕  | 個人            |
| 鏡野町・土居妙見山古墳出土 内行花文鏡      |       | 〃             |
| 津山市・近長丸山1号墳出土 内行花文鏡      |       |               |
| 勾玉 管玉 鉄剣                 |       | 津山弥生の里文化財センター |
| 久米町・三成古墳出土 四獣鏡ほか         |       | 久米町教育委員会      |
| 柵原町・月の輪古墳出土 各種埴輪ほか       |       | 月の輪郷土館        |
| 鏡野町・竹田5号墳出土              |       |               |
| 鼓形器台 刀子 鉄鎌               | やりがんな | 鏡野町教育委員会      |
| 鏡野町・竹田9号墳出土 内行花文鏡ほか      |       | 〃             |
| 津山市・畝山古墳群出土 人物埴輪         |       | 津山郷土博物館       |
| 津山市・天満神社4号墳出土 変形方格規矩鏡    |       | 〃             |
| 津山市・長畝山北古墳群出土 各種須恵器 金環   |       |               |
| 銀環ほか                     |       | 津山弥生の里文化財センター |
| 津山市・中宮1号墳出土              |       |               |
| 須恵器器台・壺・甕                | 土師器壺  | 津山郷土博物館       |
| 八束村・四つ塚13号墳出土            |       |               |
| にわとり形埴輪 五獣鏡              |       | 八束村           |
| 加茂町・万燈山古墳出土              |       |               |
| 各種須恵器・馬具 玉類 金環ほか         |       | 加茂町教育委員会      |
| 津山市・横山出土 亀甲形陶棺           |       | 岡山県立博物館       |
| 久米町・コウデン2号墳出土 各種須恵器 土師器甕 |       |               |
| 大刀 金環ほか                  |       | 久米町教育委員会      |
| 久米町・九日場古墳出土 馬具           |       | 〃             |
| 久米町・藤蔵池頭古墳出土 蛇行剣         |       | 〃             |
| 久世町・羽庭5号墳出土 各種須恵器        |       | 各種玉類ほか        |
|                          |       | 久世町教育委員会      |
| 美甘村・塚ヶ成古墳出土 銀環ほか         |       | 美甘村教育委員会      |
| 津山市・柳谷古墳出土               |       |               |
| 銀象嵌頭椎大刀 鞘尻金具             |       | 津山郷土博物館       |
| 津山市・天神原1号墳出土 環頭大刀        |       | 〃             |
| 北房町・大谷1号墳出土 環頭大刀（複製）     |       | 原品 北房町教育委員会   |
| 久米町・荒神西古墳出土 銅椀           |       | 久米町教育委員会      |
| 久米町・殿田古墳出土 銅椀            |       | 〃             |
| 〃・椋山4号墳出土 鳥形瓶            |       | 〃             |
| 吉井町・小枝2号墳出土 家形陶棺         |       | 吉井町教育委員会      |
| 落合町・下一色2号墳出土 陶棺片         |       | 落合町教育委員会      |
| 加茂町・公郷下谷出土               |       |               |
| 骨蔵器（亀甲形）                 |       | 加茂町教育委員会      |
| 中央町・打穴西出土 骨蔵器（家形）        |       | 中央町教育委員会      |
| 落合町・木山出土 骨蔵器（家形）         |       | 落合町教育委員会      |
| 津山市・鮎込遺跡出土               |       |               |
| 骨蔵器（薬壺形）                 |       | 津山弥生の里文化財センター |

テーマ展

# 「こどもの四季と遊び」

平成6. 7. 28~9. 4

各家庭や地域社会で展開された年中行事において、こどもの無事な成長を祈る様々な行事が実施されてきた。しかし、戦後の社会の急激な変化の中で、こどもを取り巻く周囲の環境も大きく変容し、そうした行事も時代の移り変わりとともに変化し、本来の姿は失われつつある。また、昭和30年代後半以降のこどもの遊びは大きく変わり、遊びの室内化及び小集団化の傾向が顕著となった。特に、屋外での集団の遊びの衰退により、長く伝承されて遊びも忘れ去られようとしている。

本展覧会では、岡山県内の四季折々のこどもに関わる各種の年中行事と自由奔放なこどもの遊びを収集し、時代の変遷の中で消失しつつある伝統的なこどもの世界を紹介した。なお、会期中の8月21日(日)には、邑久郡牛窓町の伝統的な民俗行事である「ししこま」を地元の保存会の協力により実演していただき、出来上がった「ししこま」を入館者に提供した。

## 主な展示資料

- |                          |                 |
|--------------------------|-----------------|
| 独楽(広島県・草戸千軒町遺跡出土)        | 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 |
| 毬杖・毬(広島県・草戸千軒町遺跡出土)      | 〃               |
| 羽子板〔レプリカ〕(広島県・草戸千軒町遺跡出土) | 広島県立歴史博物館       |
| 創作人形「ふるさと」(渡辺うめ製作)       | 兵庫県八鹿町          |
| こま・紙相撲                   | 井原市歴史民俗資料館      |
| めんこ・ビー玉・ケン玉・刀・鉄砲等        | 高梁市郷土資料館        |
| 木製・ブリキ製おもちゃ              | 〃               |
| お手玉・おはじき・ままごと道具          | 〃               |
| セルロイド人形                  | 加茂川町民俗資料館       |
| 紙芝居道具                    | 〃               |
| 四季風俗図屏風(石田幽汀筆)           | 兵庫県立歴史博物館       |
| 羽子板                      | 井原市歴史民俗資料館      |
| 凧                        | 和気町歴史民俗資料館      |
| 百人一首                     | 美作町歴史資料館        |
| 双六                       | 高梁市郷土資料館        |
| 内裏籠                      | 岡山県立博物館         |
| 押絵籠掛軸                    | 和気町歴史民俗資料館      |
| 流し籠(笠岡市北木島)              | 個人              |
| 初節句に贈られた人形               | 成羽町役場吹屋支所       |
| 泥天神                      | 津山郷土博物館         |
| 五月節句飾り                   | 加茂川町民俗資料館       |
| 唐子踊衣装                    | 牛窓町・唐子踊保存会      |
| 太刀踊衣装・道具                 | 牛窓町・太刀踊保存会      |

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 神根神社獅子舞衣装・道具    | 吉永町・神根神社  |
| 鋤崎八幡神社渡り拍子衣装・道具 |           |
| 備中町平川・渡り拍子保存会   |           |
| 青い目の人形「アンナ」     | 成羽町・鶴鳴保育園 |
| 青い目の人形「ベッシー」    | 金光学園幼稚園   |

## 博物館講座

恒例の歴史講座「岡山県の歴史と文化」を次の内容により実施した。募集人員60名に対し、101名の応募があり抽選により受講者を決定した。なお、好評の現地見学会には48名が参加され、真備町・矢掛町内を訪ね、箭田大塚古墳・吉備真備記念公園・下道氏墓や旧山陽道矢掛宿の町並み(本陣・脇本陣・やかげ郷土美術館)を見学した。

### 学習内容と日程

テ	マ	講 師	開 講 日
岡山平野の水田開発	岡山市教育委員会 社会教育部 文化課課長補佐	根 木 修	6/3 (金)
津山の木棺直葬墳	津山市教育委員会 津山弥生の里文化 財センター主査	行 田 裕 美	
中世備中国の荘園と国人の支配	主 任 上 林 栄 一		6/10 (金)
中世瀬戸内の商品流通と港町	学 芸 課 長 竹 林 栄 一		
現地見学(真備町・矢掛町方面)		本 館 職 員	6/17 (金)
中国山地の産業史 -たたら製鉄と鉄の流通-	学 芸 員 田 村 啓 介		6/24 (金)
新田開発と灌漑用水	総括学芸員 加原耕作		
岡山の絵馬 -絵師たちの足跡-	学 芸 員 中 田 利 枝 子		7/1 (金)
岡山の狩野派	学 芸 員 守 安 收		



博物館講座現地見学 真備町 箭田大塚古墳

## 平成6年度購入資料

- ・袖珍本 「妙法蓮華経」 8巻 室町時代
- ・備前焼置物 「雉」 1点 江戸時代
- ・常滑焼 壺 1点 室町時代
- ・刀 銘 祐恒 1口 江戸時代
- ・絹本着色「花鳥図」(鳥越烟村筆) 1幅 江戸時代
- ・紙本墨画「花卉図巻」(浦上春琴筆) 1巻 江戸時代
- ・木版淡彩色刷 官板実測日本地図 3舗 江戸時代
- ・源平盛衰記図会 6冊 江戸時代
- ・体験学習用教材 備中神楽面 4面

## 平成6年度寄贈資料

- ・絹本着色阿弥陀三尊来迎図 1幅 倉敷市 難波 道弘
- ・貝合わせ 3組 岡山市 三村喜与子  
(敬称略)

以上、貴重な資料の寄贈を受けました。永く大切に保管するとともに、本館の展示・研究資料として有効に活用させていただきます。

## 平成7年度事業のお知らせ

### ○特別展「水と暮らし」(仮称)

平成7年10月28日(土)～11月26日(日)

水は生命誕生の源であり、人間の暮らしにとって欠くことのできないものである。人類が地球上での営みを始めて以来、歴史のなかに水が関わりをもってきている。あるときには、人間にとって有益な水が、とてつもない災害を引き起こすこともあり克服すべき自然の対象となる。その一方で、かんがい用水・産業用水として、地域の発展をささえ、計り知れない恩恵をもたらしてきた。それ故に水は、人々から崇められ、信仰の対象にもなりえたのである。さらには、水をめぐって人々が争い、戦いにも利用されることさえあった。

今回の展覧会では、水のあることを当り前のこととして何も疑わなかった現在の生活から、もう一度水の大切さを認識し、水の果たしてきた役割を見つめ直し、歴史の中で人々の生活とどのように関わってきたのかを考えてみたい。

### ○テーマ展「栄西とその生涯」

平成7年4月29日(土)～5月28日(日)

栄西は平安時代末期に備中・吉備津宮(現吉備津神社)の神官の子として生まれ、比叡山で天台宗を修めたのち、2度にわたって中国へ渡航し臨済宗を日本に伝えた高僧

で、美作出身の法然とともに岡山県の生んだ偉大な宗教家である。展覧会では栄西の書簡、著述及び栄西と親交のあった重源・明恵の書簡や関係資料、栄西が修業した寺院や創建した寺院の資料などにより、臨済宗の開祖としての栄西の足跡を紹介するとともに、現在も京都・建仁寺で行われている茶会で、栄西が中国から伝えたといわれる来客接待のための四頭茶会をとりあげ、茶祖としての栄西についても紹介しようとするものである。

### ○テーマ展「むかしの旅」(仮称)

平成7年7月27日(木)～9月3日(日)

旅は日常の生活から解放され、未知なる世界へ移動することである。人々は旅に憧れ、旅での見聞は新鮮な感動とともに、貴重な情報伝達的手段としても機能し、また文化伝播の役割も担った。しかし、むかしの旅は様々な制約のもとに展開され、自由な往来は許されず、いろいろな危険もともなったものであった。

近代交通機関が発達した現在、旅の様相は一変したが、この展覧会では、むかしの旅の様子を振り返ることにより、旅の原点を考えようとするものである。

### ○博物館講座「岡山県の歴史と文化」

平成7年5月～6月  
各金曜日の5日間

普及教育活動の一環として、外部講師及び本館学芸員により、一般社会人を対象として「岡山県の歴史と文化」をテーマにした講座を実施する。

### ○夏休みこども歴史教室

テーマ展「むかしの旅」(仮称)開催期間中に関連事業として、県内の小学生親子を対象に希望者を募り、近世山陽道とその周辺の史跡(矢掛宿本陣・脇本陣など)を訪ね、実際に歩いて「むかしの旅」を体験する。

---

---

岡山県立博物館だより

No.44

発行日 平成7年3月31日

発行者 岡山県立博物館  
館長 中力 昭  
岡山市後楽園1-5  
☎(086)272-1149

---

---